

オプトアウト

研究課題名	25Gクインケ針による脊髄くも膜下麻酔における帝王切開後硬膜穿刺後頭痛： 後方視コホート研究
研究実施機関名および 研究責任者	さいたま赤十字病院 麻酔科 後期研修医 喜田藍
研究代表施設 および代表研究者	さいたま赤十字病院 喜田藍
研究期間	倫理委員会承認日から2023年3月31日
研究の目的と意義	脊髄くも膜下麻酔は帝王切開における最も一般的な麻酔法であるが、その合併症に硬膜穿刺後頭痛（PDPH）がある。PDPHは硬膜穿刺後6-72時間後に発症し、座位・立位で増悪し臥位で改善する。帝王切開後は授乳など児の世話をする必要があり、PDPHを発症すると育児の障害になる。産後のPDPHは母親のメンタルヘルスに長期的な悪影響を及ぼす事が示されており、自然軽快する頭痛と安易に考えてはいけない。当院では脊髄くも膜下麻酔の穿刺で25Gクインケ針を採用しているが、術翌日の術後回診で頭痛を訴える患者は、一般に報告されている5%より少なく感じる。これは、硬膜外鎮痛では硬膜外腔へ薬液を持続的に注入するため、脊柱管内圧が高まり、PDPH発生に予防的な効果がある可能性が推察される。しかしながら、これまで当院では帝王切開後PDPHについて、包括的調査は行なっていないため、この因果関係は分からない。 そこでわれわれは帝王切開術後の入院期間にわたって頭痛の発生頻度を検討し、麻酔方法がPDPHに影響を与えるかどうか検討しようと考えた。
本研究の対象のなる方	2021年1月1日から2021年12月31日に当院で麻酔科管理にて帝王切開の手術を脊髄くも膜下麻酔にて受けた方
提供していただく情報	【母体情報】母体年齢、母体身長、母体妊娠前体重および分娩時体重、妊娠歴、分娩週数、帝王切開適応、American Society of Anesthesiologists Physical Status分類、入室時刻・麻酔開始時刻・児娩出時刻（双胎の場合は1人目）・手術終了時刻、最高麻酔レベル、区域麻酔（硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔の穿刺時の情報）、術後の悪心嘔吐・頭痛、術後の硬膜外麻酔の使用、硬膜外持続鎮痛中止時刻、退院日時。 母体合併症（糖尿病、心疾患、甲状腺疾患、神経疾患）、妊娠合併症（妊娠高血圧症候群、胎児発育不全、羊水過多）、術中輸液総量・膠質液量・晶質液量、術中出血量・尿量・その他体液量、ヘモグロビン値

	(手術直前・手術直後) 【胎児情報】性別, 出生体重, APGARスコア (1分値, 5分値), 臍帯動脈血液ガス分析 (pH, pCO₂, pO₂, SO₂, BE, lactate), NICU入室の有無・期間
研究内容	介入・侵襲を伴わない後ろ向き観察研究
個人情報の取り扱い	患者の個人情報が院外へ漏れないように十分配慮する。抽出した患者データはパスワードをかけたファイルで保管する。
問い合わせ先 (拒否等の受付窓口)	【研究担当者】 所属：さいたま赤十字病院 後期研修医 氏名：喜田 藍 住所：埼玉県さいたま市中央区新都心 1 番地 5 電話：048-852-1111